

※このカレンダーは、印刷に際しては必ずこのページの下部にある注意事項を必ずご確認ください。  
※このカレンダーは、印刷に際しては必ずこのページの下部にある注意事項を必ずご確認ください。



このカレンダーは、印刷に際しては必ずこのページの下部にある注意事項を必ずご確認ください。

2100

NECソフト  
〒136-8627 東京都江東区新木場一丁目18番7号 TEL.(03)5534-2222(代差)  
<http://www.necsoft.co.jp/>

# 2006 Calendar

*Mes Voyages de Couleur et de poème*

色彩とポエムの旅



地中海のへそと呼ばれていた、マルタ  
 この島を多くの民族や文化、支配者が行き交った群青色の海をたたえる  
 マルタの首都、ヴァレッタは夕焼けに赤く染まり、  
 7000年にも及ぶ歴史への情熱を色濃く語りかける



January **1** 2006

2	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28					

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
<b>1</b> 元日	2	3	4	5	6	7
8	<b>9</b> 成人の日	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



ブレスリーの映画でいちやく世界に  
知られることになった。アカプルコ。  
強烈な太陽はどこから陽気な音楽が聞こえてきそうな風景だ。  
ガラスの破片のように鋭角的な日差しが、目を射抜く。  
南国の太陽はどこまでも挑戦的で、旅人のエネルギーをかきたてる。



February **2** 2006

3	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
5	†	†	†	1	2	3	4
12	6	7	8	9	10	11	18
19	20	21	22	23	24	25	25
26	27	28	29	30	31		

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11 建国記念の日
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				



イスタンブールの中心を貫く  
 ボスポラス海峡からスルタンアフメット・モスクを眺める  
 優雅な6つの尖塔は、大空に希望と睿智の手を伸ばしているようだ  
 内部の壁は美しい青と白のイズニックタイルで飾られ、  
 別名ブルーモスクとも・・・



March **3** 2006

4

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24	25	26	27	28	29

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21 春分の日	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



「ナポリを見て死ね」という言葉があるが、  
実際に目の前にしてどうなのだろう。

風景にも「名物」がまじり込んでいるのだろうか。

ポンペイを一瞬のうちに廃墟に変えたヴェスビオ山は、角のとれた熟年紳士のようにおだやかに見えるし、海は雨の光を引けて優しくきらめく。  
新緑の景色より、ナポリの光や空気が気に入った。南国の官能的な匂いがする…。



April **4** 2006

5	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29 みどりの日
30						



砂漠と花崗岩の乾ききった大地をうるおす豊かなナイル川の流れ  
 焼け付くような太陽に少し離れた旅人にとって、オアシスのように優しく  
 帆掛け舟、ファルッカの船影が涼しげ  
 ナイル川岸辺で最も美しい町のひとつ、アスワンには静けさに満ちた時間が流れている



May **5** 2006

6  
 Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat  
 4 5 6 7 8 9 10  
 11 12 13 14 15 16 17  
 18 19 20 21 22 23 24  
 25 26 27 28 29 30

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3 憲法記念日	4 国民の休日	5 こどもの日	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



一週間の休戦がとれたら、パリに行こう。  
 パリに行って、地下鉄を乗り継いで、いろんな街角を歩こう。  
 カフェに入り、街行く人を眺めてもいい。  
 セーヌ河畔のベンチに座って、テイクアウトのサンドイッチをかじり、ランチにしてもいい。



October **10** 2006

11	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9 体育の日	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

# Mes Voyages de Couleur et de poème

## 色彩とポエムの旅

旅に出ると、誰もが身体の中に刻みこまれている不思議な時間感覚に浸れるのではないだろうか。旅先で流れる時間はいつもの日常をはるかに越えている。空間のトラベラーは時間のトラベラーでもある。日常とは違う時間と空間に身を投じること。これが旅というものだ。吉岡耕二の絵にはそんな旅の本質が鮮やかな色彩の乱舞となって描かれている。

旅には二つの時間がある。旅先での時間、そして旅から帰ってきて流れる時間だ。吉岡耕二の色彩を生み出すのは旅を終えたあとの時間である。旅先で出会った風景。視覚に強烈なインパクトを残した異国の空間。太陽の輝きの深い印象。うつろう光の中に身を寄せるひと。風の匂いや街の音。それら五感に訴えたすべは、旅を終えた後の時間によってデフォルメされ、彩色され、あるものは、かすかになる。時が記憶を脚色する……。

アカブルコの海を彩る黄色い光。ナイル川の深い青とオアシスのようなみずみずしい緑、イスタンブールの海と空を染めるバラ色、エネルギッシュな街、ニューヨークを象徴するかのようなオレンジ色と深紅、パリのノートルダム寺院をつつむオレンジ色の陽光。。印象派のゴッホのように強烈な色彩をとき放ち、モネの絵のように光の中に風景がとけあうかのように見える。だが吉岡耕二の絵は風景との距離を考えると、印象派というより心象派といった方が近いだろう。吉岡耕二が創る空間のポエムは時間の脈脈から掘り起こされたもの。旅先で見た風景との距離は人間の心の営みがもたらしたものだから。

エッセイスト 阿久津 恵美 (絵のポエム)



### 吉岡耕二 略歴

- 1943年 大阪に生まれる
- 1962年 大阪市立工芸高校美術科卒業
- 1967年 渡仏 パリ国立美術学校に留学
- 1968年 サロン・ソシエテ ナショナル・デ・ボザール(於パリ近代美術館)出品  
サロン・アーティスト・フランセーズ(於グランパル)受賞  
美術誌「アート」に紹介される  
スペイン・ポルトガル・モロッコ・アルジェリア旅行
- 1970年 サロン・ドートンヌ初出品(翌年共2年連続)、会員候補に推挙される
- 1971年 サロン・テールラテンに招待される
- 1972年 ハビエ画廊(銀座)にて個展  
インド・ネパール旅行
- 1973年 パリに於ける各展の他、アンデパンダン展にも出展
- 1975年 サロン・ドートンヌ正会員となる
- 1981年 14年の滞仏生活を終え帰国
- 1983年 チベット旅行
- 1985年 ギャラリー・ミキモト(銀座)にて個展
- 1987年 エジプト旅行  
梅田阪急(大阪)にて個展
- 1988年 渋谷西武(東京)にて個展 春秋館画廊(大阪)にて個展
- 1989年 モロッコ旅行
- 1990年 ギャラリー・アーバン(東京)にて個展
- 1991年 梅田阪急(大阪)にて個展
- 1992年 メキシコ旅行
- 1993年 スペイン旅行  
宝塚西武(神戸)、ギャラリー・エモリ(東京)にて個展
- 1994年 カリブ旅行
- 1995年 ギャラリー・エモリ(東京)にて個展
- 1996年 キリシア旅行
- 1997年 東急Bunkamuraギャラリー(東京)にて個展
- 1998年 梅田阪急(大阪)、東急Bunkamuraギャラリー(東京)にて個展
- 1999年 A.B.C.ギャラリー(大阪)、近鉄百貨店(大阪上本町)にて個展
- 2000年 大丸百貨店(東京)、東急Bunkamuraギャラリー(東京)にて個展

その後、東京・大阪を中心にギャラリー等で定期的に個展を開催。